0→1 MAKE IT HAPPEN

ポートフォリオの大幅な変革に向けた JSR社買収に関する説明

CEO PRESENTATION

Chemistry for Sustainable World

未来が変わる。化学が変える。

Mitsui Chemicals

市村　聡
ICHIMURA Satoshi
Mitsui Chemicals Inc.
President & CEO

November 9, 2026

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

本日のキーメッセージ

◆当社はそれぞれの時代の社会課題解決のため、1912年に始まった日本初の石炭化学を皮切りに、日本初の石油化学等、大きくポートフォリオ変革してきた

◆今回のJSR社買収は、単なる半導体材料事業の強化ではなく、当社グループが目指す**真のグローバルスペシャリティカンパニー実現のためのポートフォリオ変革を加速する戦略的案件**

◆優れたポートフォリオを持つJSRの半導体事業が当社グループのICT事業に加わることで、**半導体材料業界において高いプレゼンスを獲得し、シナジー創出により高い成長性・収益性を実現**する

◆**本件を機にさらなる再編・提携を進め**、海外のグローバルスペシャリティ企業と伍して行ける**日本発のグローバルスペシャリティカンパニーを目指す**

◆以上のポートフォリオ変革を通じ**FY2030目標であるコア営業2,500億円を超える利益「3,000億円以上」を実現し、EPS向上を通じ企業価値向上**を目指す



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ JSR社買収概要
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ 価値創造・シナジー
▶ 資金調達・還元方針
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

2軸経営の進化／当社の目指す姿

これまでの目指す姿

成長領域
- L&HC
- モビリティ
- ICT

積極投資・回収 / オーガニック成長 / 新事業・M&A・提携

・成長加速に資するM&Aを含めた**積極的な資源投下、グローバル展開**
・収益性・資本効率性に課題のある事業の**再構築、ポートフォリオ変革**

高成長・高収益の
グローバルスペシャリティカンパニーへ

今後の目指す姿

ICT ＋ JSR社
L&HC ＋ Ultradent社

・安定成長のL&HCと高成長のICTを中心としたポートフォリオに変革

再編・提携

海外競合に伍する日本発の
グローバルスペシャリティカンパニーへ

B&GM

再構築加速 / ダウンフロー強化

・**地域・他社連携**の推進加速

FY27 分社化

日本の産業を支える強靭な
ベーシック＆グリーンマテリアルカンパニーへ

B&GM ＋ モビリティ

・オレフィンから機能性ポリマー群も含めたポリマーチェーン一貫となった体制で自立化を図る

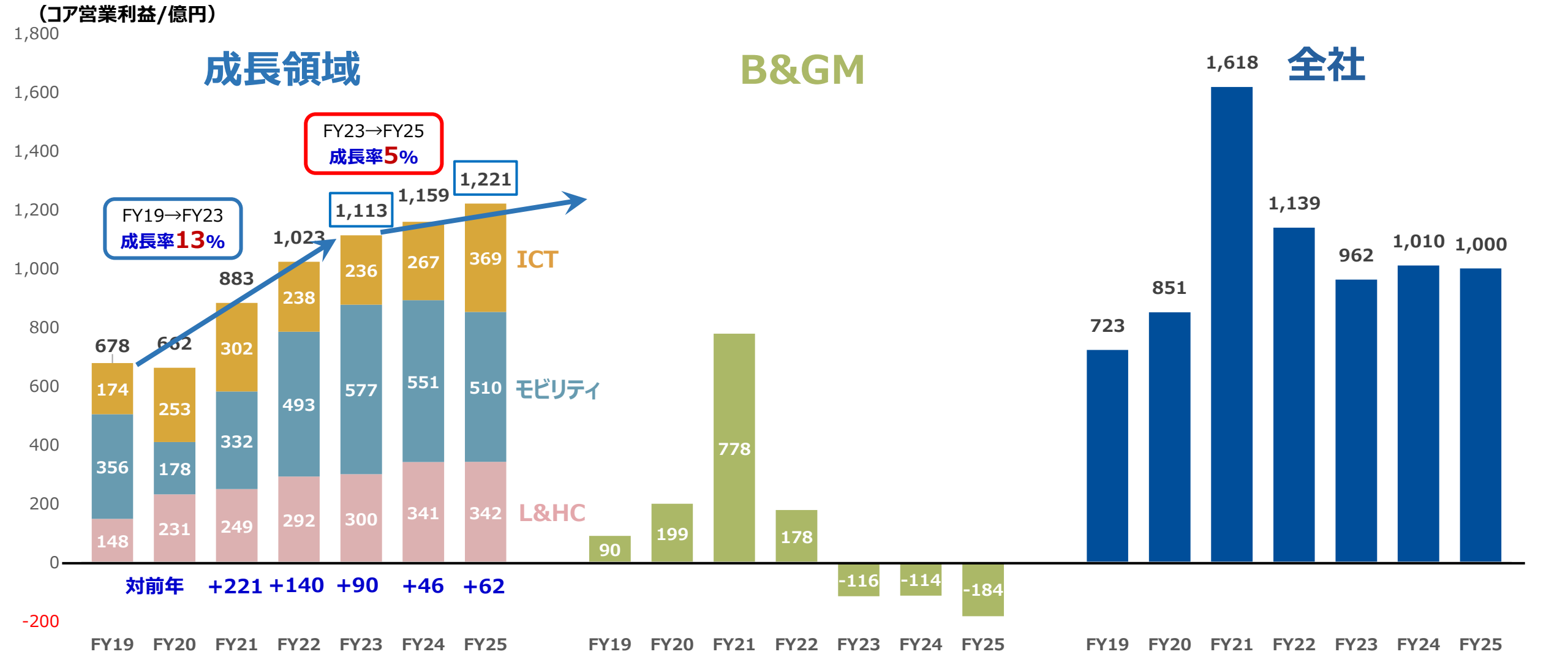
FY27 分社化 ⇒再編・提携

日本の産業を支え、世界で存在感のある
ポリマーサイエンスカンパニーへ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

2軸経営の進捗と課題

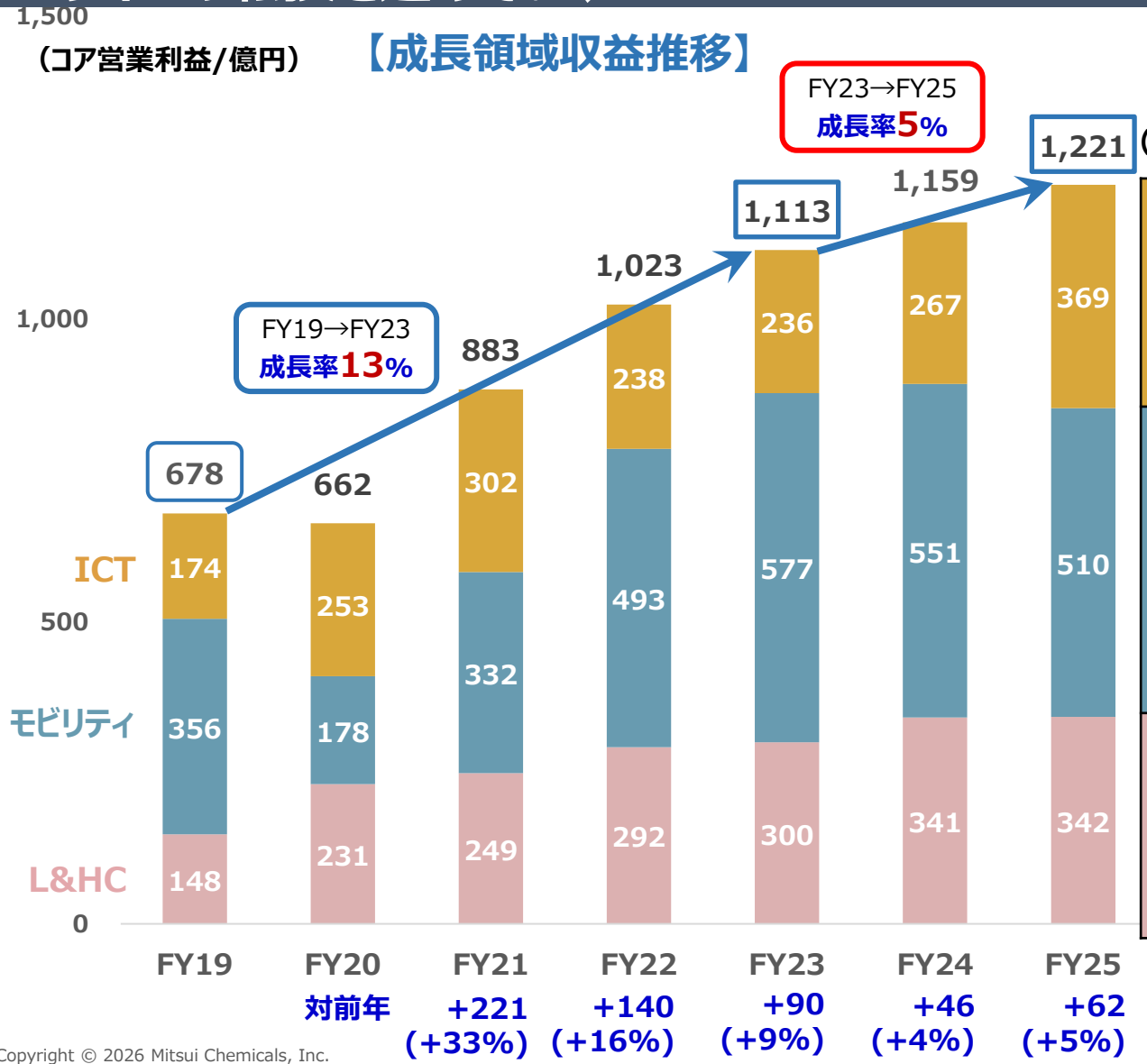
◆成長領域のコア営業利益は着実に拡大するも成長スピードに課題
◆B&GMは、事業環境悪化などにより３年連続のコア営業損失となり、さらなる強靭化策が必要



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

成長領域の進捗と課題

◆モビリティのウェイトの高いポートフォリオから、より高成長・高収益のL&HCとICTが中心となるポートフォリオへの転換を進めていく



FY19→25 +195 (2.1倍)	◆半導体市場の波の影響を受けるが、**高い成長を実現し、今後も高成長が期待**できる ◆**イクロス、ペリクル等グローバルNo１製品を有する**も、**ICT関連製品ポートフォリオ拡充が課題**
+154 (1.4倍)	◆PPコンパウンド等グローバルで競争優位なポジションを有しており、**当社の収益・キャッシュ創出力ともに第１の柱** ◆自動車比率が約７割と高く、今後の高い成長のためには**多用途展開が課題**
+194 (2.3倍)	◆安定的に成長するセグメントして、**ビジョンケアと農業化学品が成長を牽引** ◆米国Ultradent社買収により**歯科材料事業を新たな収益の柱として育成し、今後も高い成長を実現**

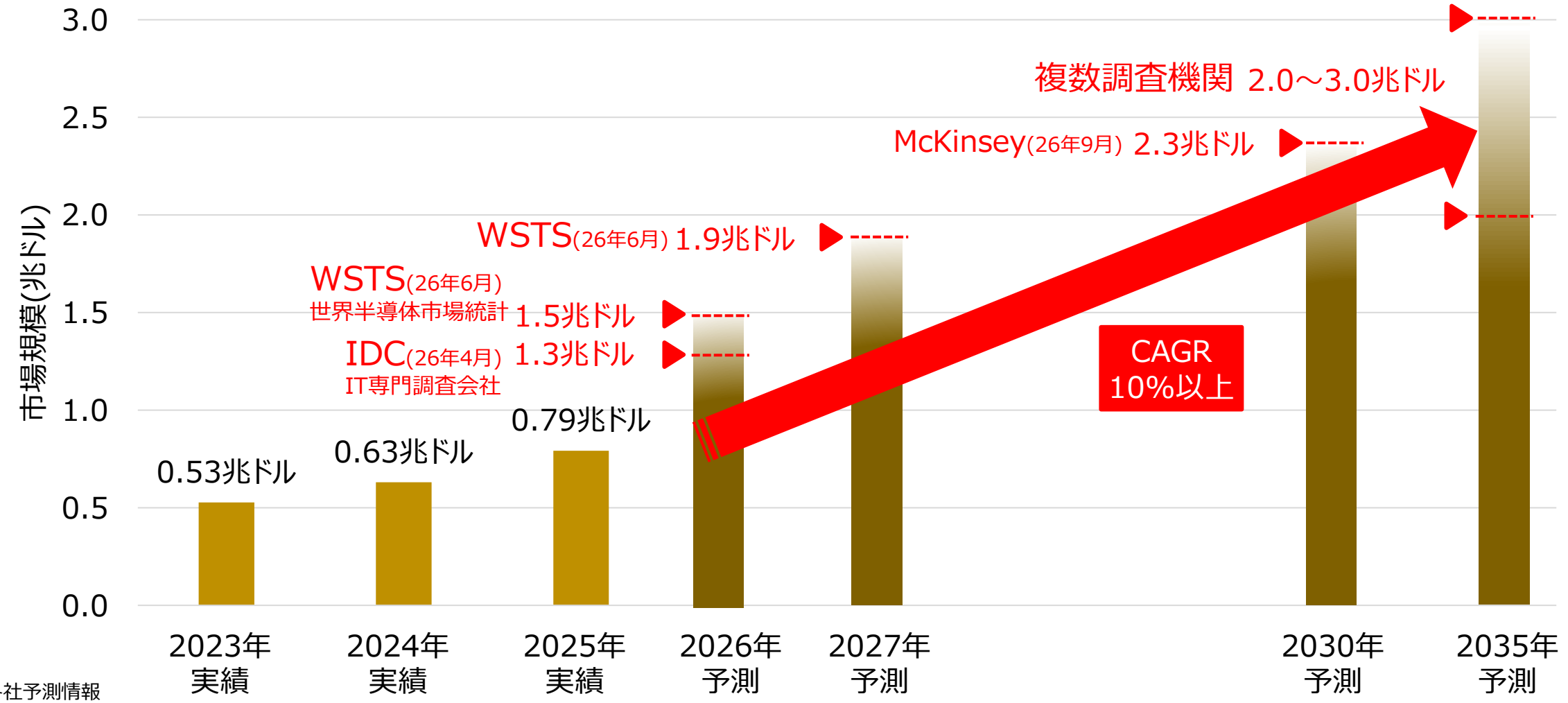
Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

半導体市場の成長性

◆半導体市場は、2025年からCAGR10%以上の成長を見込む
◆その他の調査機関等からも予測の上方修正が相次いでおり、市場拡大の継続が想定される

半導体市場予測(2026～2035年)

( )は公表時期



出典：各社予測情報

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

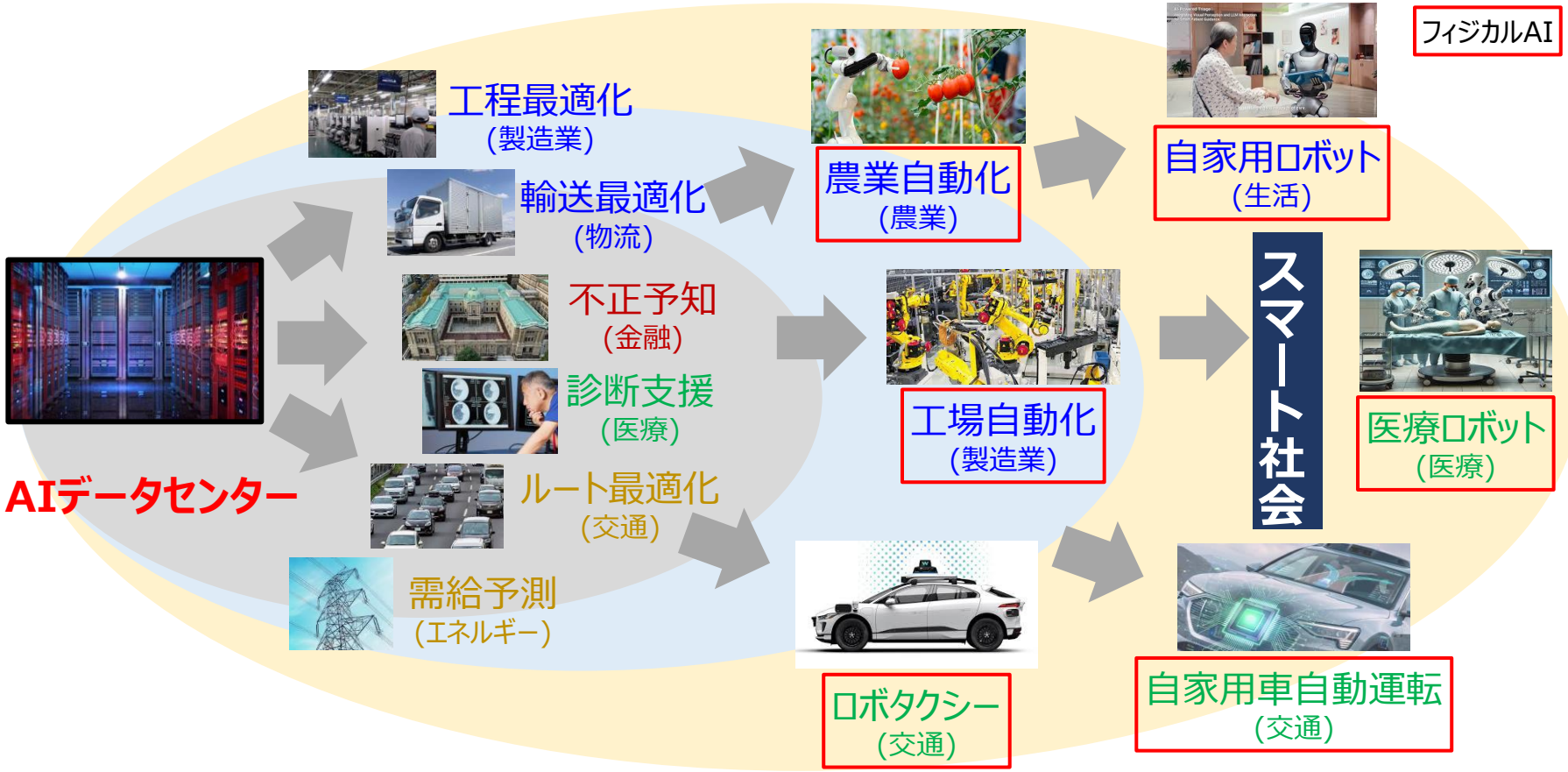
社会構造の転換（AIのインフラ化）

◆AIデータセンターは社会インフラとして定着し、AIは生活や産業の至る所への浸透が進行
◆2035年頃からフィジカルAIが普及し、スマート社会の生活基盤となる見込み

社会課題 → 解決策

- 人口減少、高齢化、少子化による労働力不足
  →**最適化、自動化、ロボット**
- 地方の人口流出による地域公共サービスや医療問題
  →**診断・予測、自動化、ロボット**
- 電力需要の増加、脱炭素
  →**需給予測、ルート最適化**
- サイバー攻撃リスク増大
  →**不正予知**

AIの役割	2030年 社会インフラ化	2035年 基幹インフラ化	2040年 生活基盤化
		フィジカルAIの発展	



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

当社グループの半導体材料ポートフォリオ

ICT関連製品を幅広く展開し事業拡大を図っているが、売上収益100億円超える規模の製品はペリクル、イクロス、SP-PETのみで、半導体高成長機会獲得にはポートフォリオ拡充が課題

前工程

世界No1

*25年能力増強

- ジシラン 高次シラン
- トリメチルアルミニウム 半導体ドープ材原料 — 日本アルキルアルミ
- 三井ペリクル™
- ミレックス® フェノール群 本州化学工業 フォトレジスト用原料
- FORTIMO® タケネート® CMP研磨パッド用材料
- アントラキノン 過酸化水素製造用触媒 — 山本化成

シリコンウェハ → 成膜 → 露光 → エッチング → CMP → 洗浄 → テスト → 半導体ウェハ

シンテックス®ナノ スラリー・洗浄用液体フィルター — エム・エーライフマテリアルズ

後工程・実装

世界No1

- ピバール® ウェハサポート仮固定接着剤
- イクロステープ™ — 三井化学ICTマテリア
- 接合材 3次元実装向け低温接合用接着剤
- Paltref™ 超高耐熱離型フィルム
- 透明接着剤 光学材料固定用接着剤

裏面研削 → ダイシング → ICピックアップ → ダイボンディング → モールディング → テスト → 半導体パッケージ

基板

樹脂基板 → 穴あけ → メッキ → 露光 → エッチング → 積層 → 実装基板

- ギガフリーク® 高周波基板用低誘電樹脂
- 三井ペリクル™

フレキシブル基板向け
- FPC用離型フィルム オピュラン® — 三井化学ICTマテリア

プロセス全般向け
- エレクトロニクス部材保護フィルム 三井マスキングテープ™ — 三井化学ICTマテリア

SHINKO 三井化学

基板・実装工程向け次世代材料
新光電気工業社との技術融合で効率的開発
各社との共創*により新規ニーズに先着
*クリエイティブインテグレーションラボ(CIL)等活用

組立

- シンテックス®ナノ MLCC工程洗浄用液体フィルター — エム・エーライフマテリアルズ
- コンデンサー部品
- SP-PET™ MLCC用離型フィルム — 三井化学ICTマテリア
- モジュール

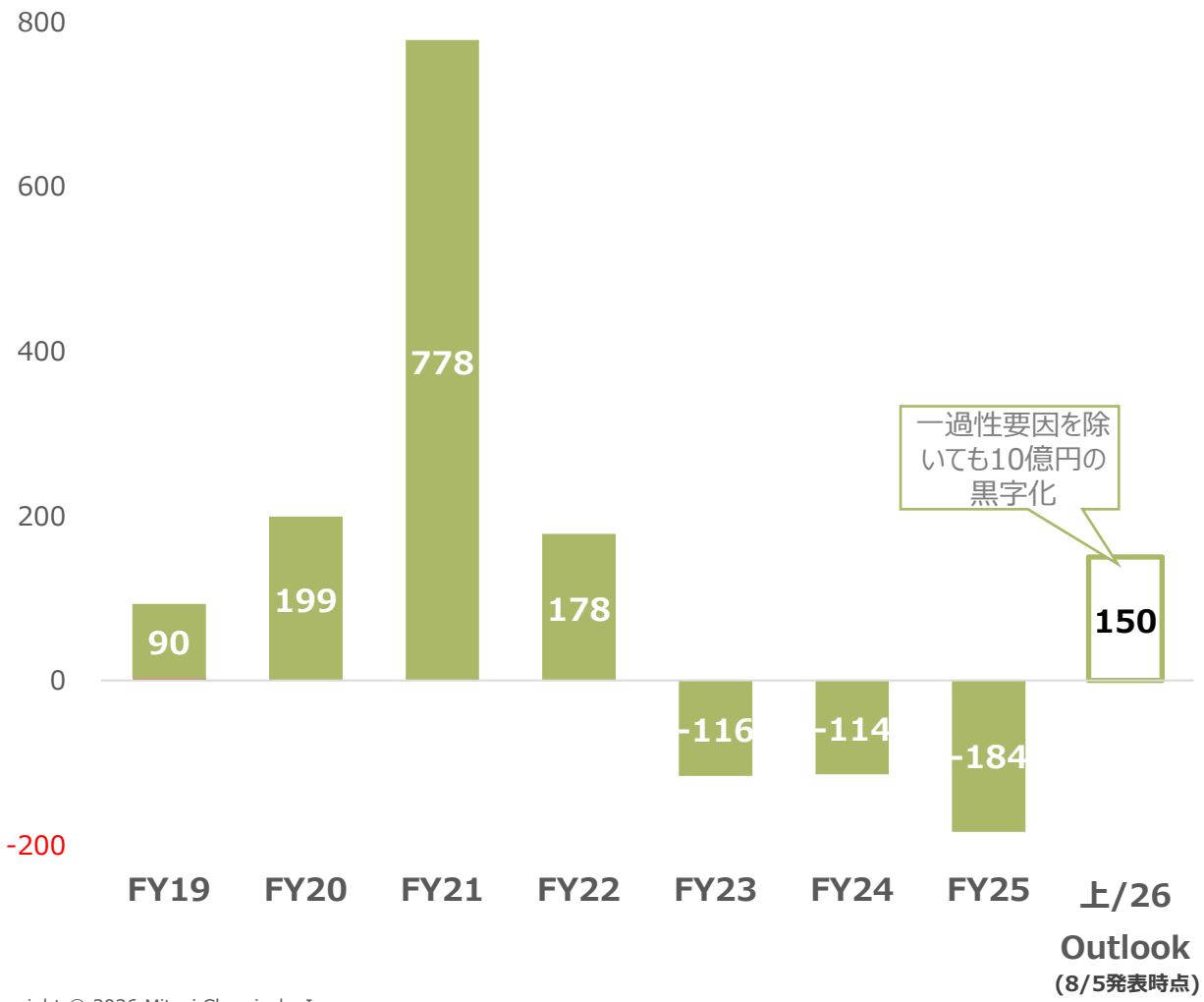
赤字：重点事業
青字：既存製品
緑字：開発品

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

B&GMの進捗と課題

◆再構築の着実な進展と生産トラブルからの回復により黒字化に転換し、東西クラッカーの統合、ポリオレフィン事業統合によりさらなる収益改善を目指すが、強靭化・自立化にはさらなる方策が必要

【B&GM収益推移】



PH	市原停止 FY25 10月末 / 他社連携による安定供給体制 中国JV株式譲渡（海外拠点から全て撤退）
PTA PET	岩国PTA 停止 FY23 岩国PET 停止 FY24 インドネシア PET JV株式譲渡 FY26
ポリオレフィン	千葉PP 2系列 停止 FY23、FY26 ポリオレフィン事業統合 FY26 7月スタート FY30 シナジー効果 80億円以上
ウレタン	MDI次期デボトル増強（+10万 t 、FY27） TDIダウンサイジング （12⇒5万 t FY25 7月）
エチレンクラッカー	千葉LLP1基化 FY27 西日本３社連携1基化 FY30頃 FY27～市原フル稼働 FY30～大阪フル稼働

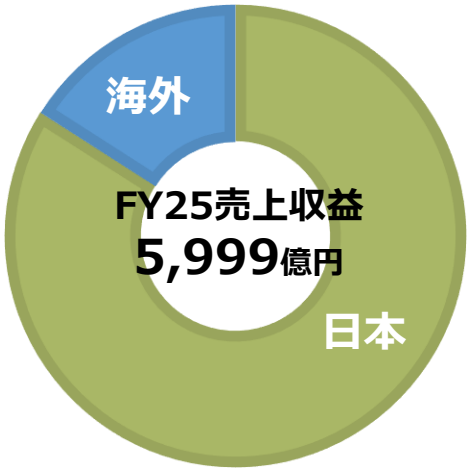
Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

「ポリマーサイエンスカンパニー」として自立化・強靭化

◆B&GMとモビリティの一体運営によりチェーン一貫での技術強化、規模の拡大、グローバル展開が可能となり、強靭な事業体を形成

これまでの目指す姿（B&GM）

日本の産業を支える強靭な
ベーシック＆グリーンマテリアルカンパニーへ



1兆円規模の事業体へ
国内中心からグローバル展開へ

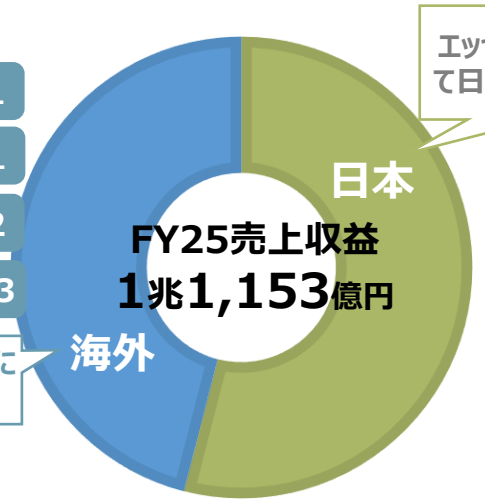
モノマー　クラッカーグリーン化技術(開発中)
×
ポリオレフィン　分子設計・触媒・リサイクル技術

今後の目指す姿（B&GM＋モビリティ）

日本の産業を支え、世界で存在感のある
ポリマーサイエンスカンパニーへ

PPコンパウンド	世界No1
アドマー®	世界No1
タフマー®	世界No2
三井EPT™	アジアNo3

特長のあるポリマー群を武器に
グローバル展開加速



エッセンシャル事業として日本の産業を支える

ポリマーチェーン
一貫で技術強化

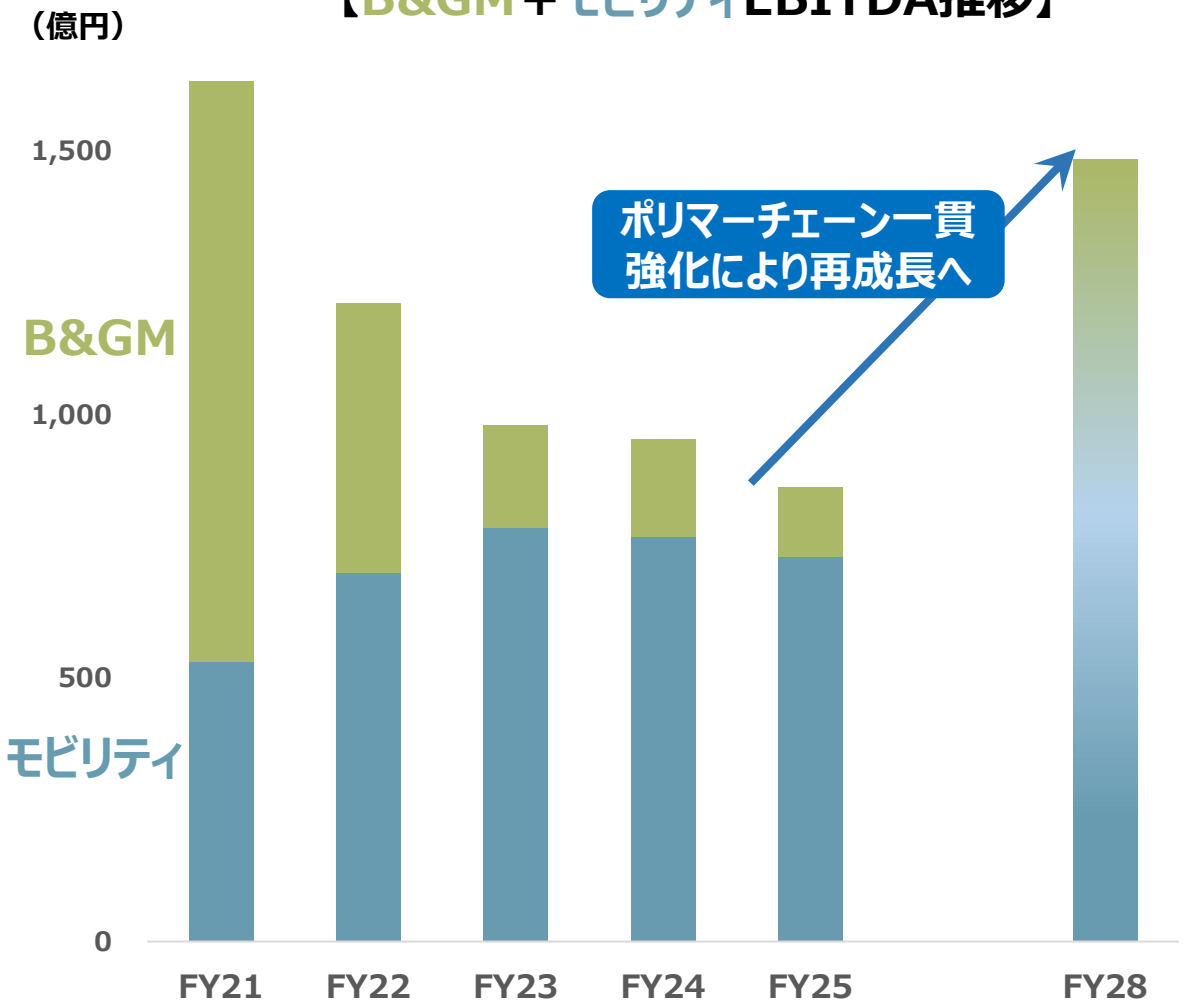
モノマー　クラッカーグリーン化技術(開発中)
×
ポリオレフィン・エラストマー　分子設計・触媒・リサイクル技術
×
PPコンパウンド・機能性コンパウンド　複合化技術

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

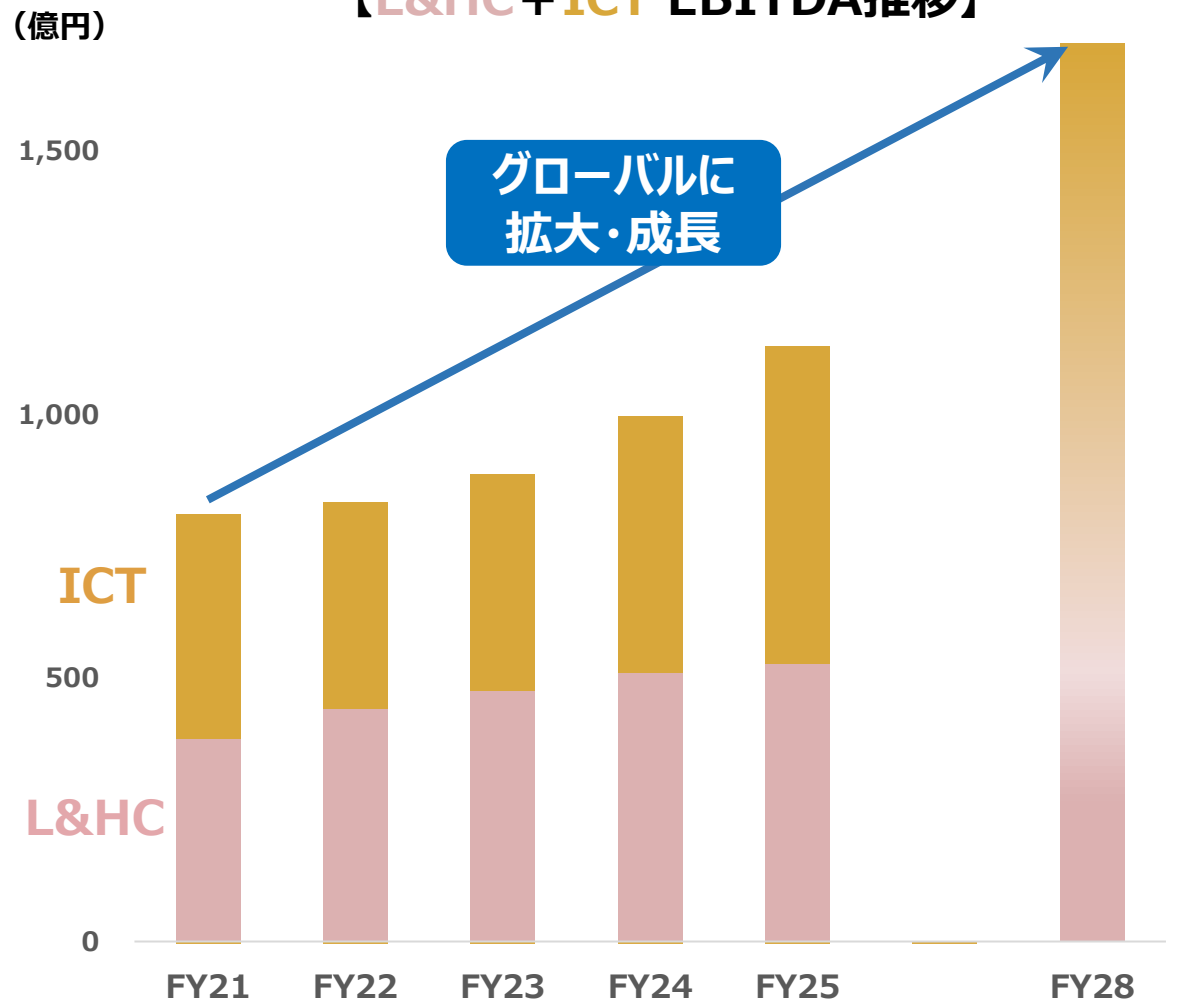
2軸のポートフォリオの自立化・強靭化

B&GMが機能性ポリマー群と一貫の事業体として分社することで、自立化と強靭化が可能となり、当社の２軸のポートフォリオ各々が自立的にキャッシュを回して拡大・成長を目指す

【B&GM＋モビリティEBITDA推移】



【L&HC＋ICT EBITDA推移】



（注）調整EBITDA＝コア営業利益＋減価償却費

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ **JSR社買収概要**
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ 価値創造・シナジー
▶ 資金調達・還元方針
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

JSR社概要

会社名	JSR株式会社
事業創立	1957年
代表者	代表取締役・CEO・社長執行役員 堀哲朗(25年4月就任)
従業員数	連結 6,951人(26年3月31日時点)
上　場	JICキャピタル株式会社のTOBにより24年6月に上場廃止
株　主	JIC PE共同投資ファンド1号投資事業有限責任組合 93.0%, JIC PEファンド1号投資事業有限責任組合 7.0% (いずれも議決権ベース)

事業内容

デジタルソリューション事業
半導体材料、ディスプレイ材料、光学材料
合成樹脂事業
ABS樹脂等のポリマー材料
ライフサイエンス事業
CDMO事業、CRO事業

主要拠点

本社・営業所：東京
研究開発：四日市、東京、川崎
国内製造拠点：四日市、佐賀、市原、宇部、大竹
海外製造拠点：米国、欧州、中国、韓国、台湾

業　績

(億円、%)		FY2024	FY2025	増減	
売上収益		3,888	4,407	519	
コア営業利益		△ 16	623	640	
ROS		-0.4%	14.1%	-	
当期純利益		△ 2,177	607	2,784	**【各セグメントの戦略の方向性】**
主要セグメント	デジタルソリューション事業 売上収益	2,157	2,521	364	・半導体材料、光学材料等が成長ドライバー
	コア営業利益	431	632	201	
	ROS	20.0%	25.1%	-	
	合成樹脂事業 売上収益	933	928	△ 5	・高付加価値品へのシフトを強化
	コア営業利益	13	34	21	
	ROS	1.4%	3.7%	-	
	ライフサイエンス事業 売上収益	809	1,021	212	・非中核事業としてあらゆる選択肢を検討
	コア営業利益	△ 387	49	436	・バイオプロセス材料事業売却完了(26年3月)
	ROS	-47.8%	4.8%	-	・診断薬事業売却完了(25年10月)

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

JSR社のICT関連材料事業群

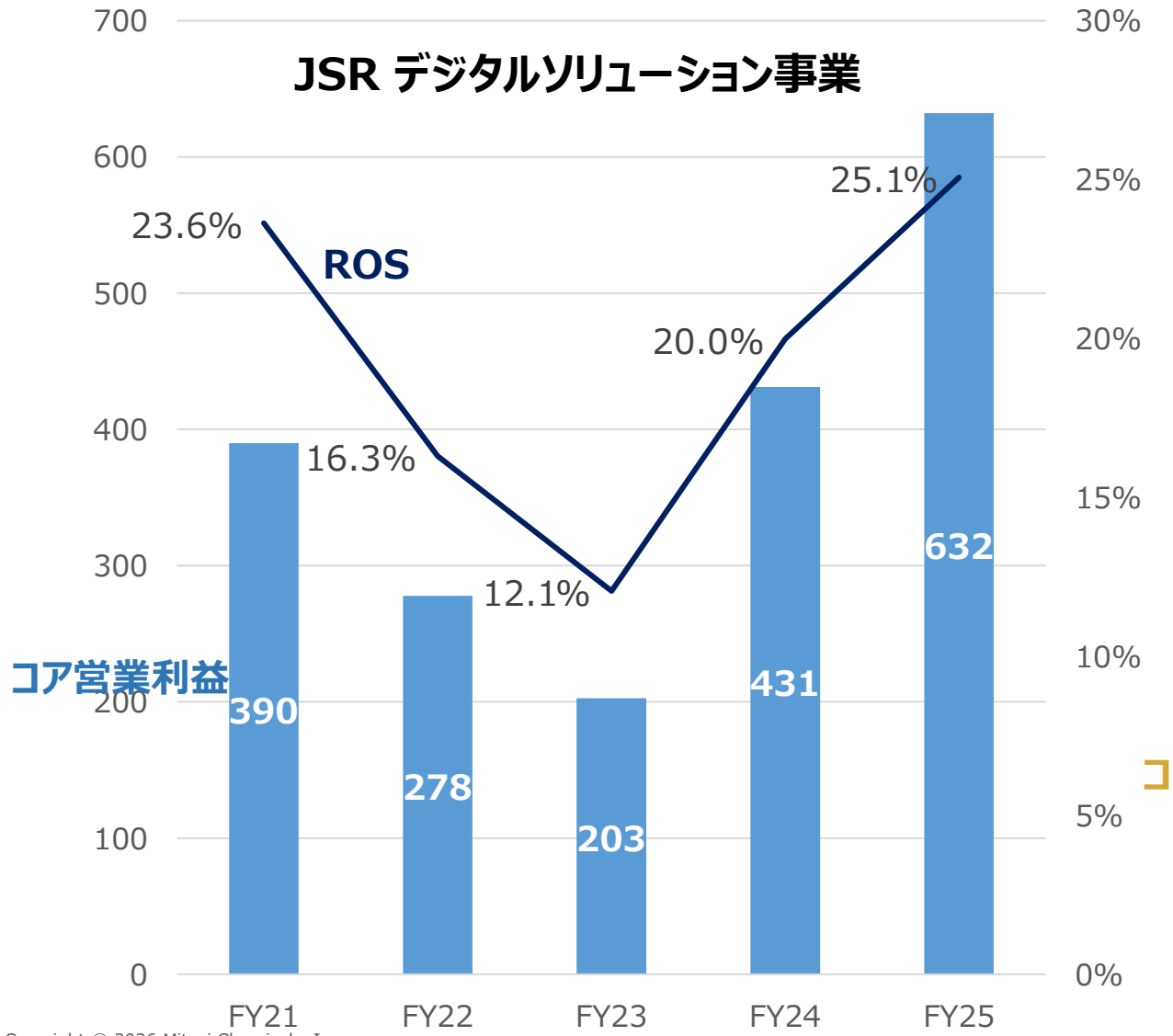
グローバルに競争優位かつ豊富な半導体・光学材料のポートフォリオを有する

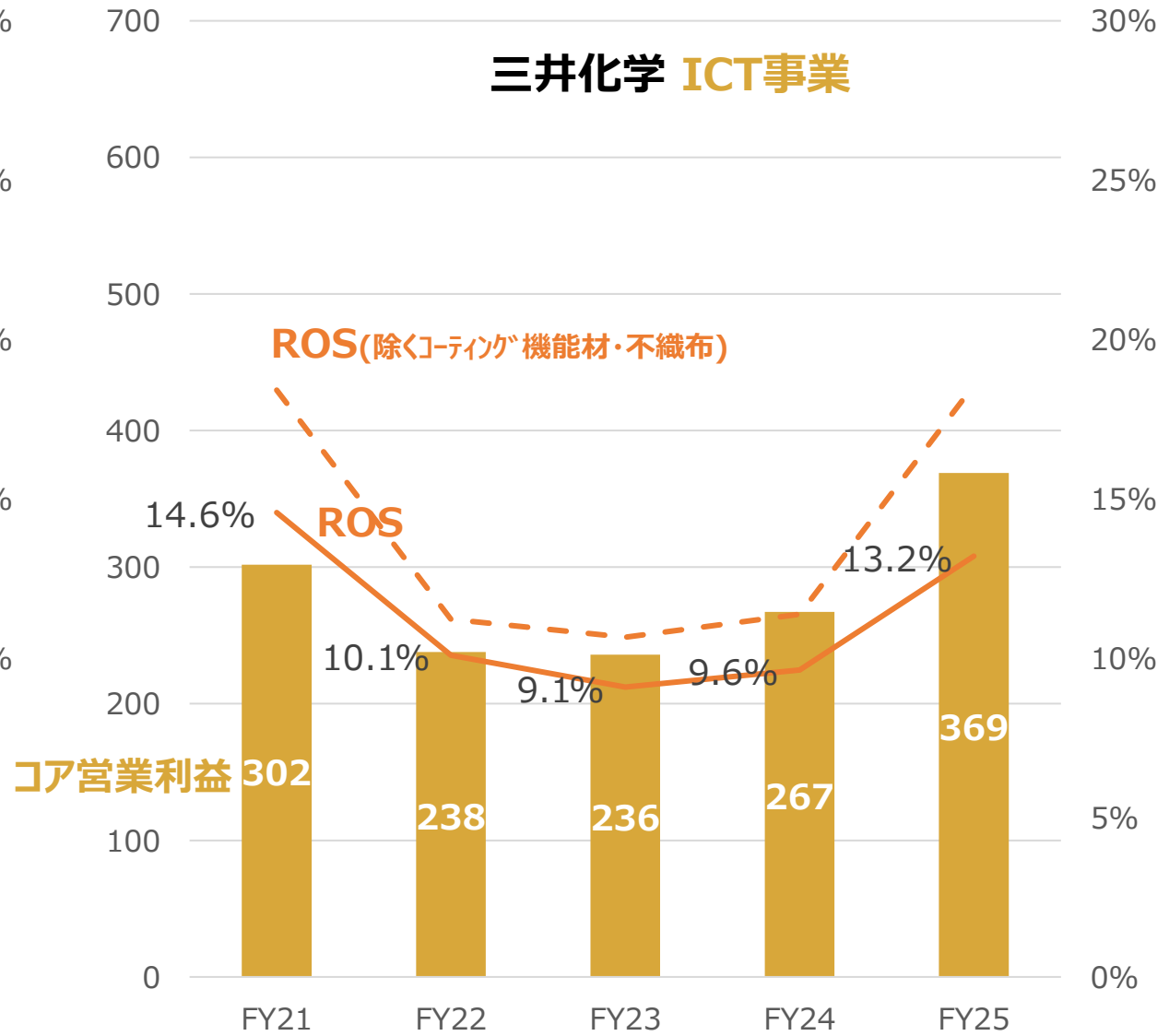
（億円）	FY2024 売上収益	FY2025 売上収益	主要製品	特長
電子材料事業（半導体材料）	1,579	1,960	フォトレジスト（ArF, EUV）	グローバル市場でシェア2位、EUVでは唯一CAR・MOR両ソリューションを提供可能
			多層材	リソグラフィー、CMP、洗浄、デポジション等の前工程プロセス、後工程、基板等にて幅広い製品群と先端分野での採用、グローバルでのトップシェアクラスの実績あり
			CMPスラリー	
			ALD・CVD材料	
			厚膜レジスト	
			再配線材、低誘電樹脂	
ディスプレイソリューション事業	482	461	液晶配向膜、絶縁膜	液晶配向膜はグローバルシェアNo1
オプティカルソリューション事業	96	101	光学樹脂(アートン)	光学フィルム向けに高いシェア

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

ICT事業業績推移比較

◆豊富な半導体関連製品ポートフォリオを持つJSR社のデジタルソリューション事業は、当社よりも収益力および収益性に優れている





Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

買収概要

買収対価	▶ 株式価値 １兆3,921億円（100%取得ベース） 注1 有利子負債他は引き継ぐ（クロージング時想定: 4,479億円） 注2 最終的な買収対価はクロージング時の各種調整事項を適用した上で決定予定 ▶ EV/EBITDA倍率　16倍（FY26見通しベース）
出資形態	▶ 当社と株式会社日本政策投資銀行（DBJ）との共同出資 DBJ出資額：2,000億円（全額無議決権優先株式）
スケジュール	▶ FY27下半期クロージングを想定（関係当局の承認次第で変更あり）
資金調達	▶ 買収時は銀行借り入れによるブリッジローン活用（1兆6,400億円） ▶ 複数の調達手段を組み合わせてパーマネント化（ストラクチャーは後述）
財務方針	▶ 3年以内にデレバレッジを進め、格付A格ゾーンを維持可能な財務健全性を確保する（詳細は後述）

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ JSR社買収概要
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ 価値創造・シナジー
▶ 資金調達・還元方針
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

真のグローバルスペシャリティカンパニーに向けた基本方針との適合性

【JSR社買収の戦略適合性】

基本方針：2026年5月27日経営概況説明会にて開示

成長領域の中でも安定成長のL&HC、成長性の高いICTに厚く資源投下する

市場成長＋αの獲得を目指す

差別化	×	領域の広がり	×	地域の広がり	×	社会の転換からの機会獲得
• 高い収益性の半導体・光学材料事業 • 世界トップクラスのフォトレジスト等、高いシェアの製品群		• フォトレジスト等豊富なICT・光学関連製品ポートフォリオ		• 当社ICT事業より高い海外売上高比率（71%@FY25）		• デジタル化・AI革命 • ICT・AIは社会インフラとして定着化 • 将来的にはフィジカルAIも生活の基盤に

領域/地域の広がりのためにはM&Aや提携も積極的に活用する

成長領域でも期待値に満たない事業/関係会社の方向性は26年度中に決める

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

ICT事業のポートフォリオ拡充

半導体・光学関連材料のポートフォリオ拡充により市場の成長機会を獲得可能な基盤確立

前工程
中核材料と周辺材料を組み合わせた提案

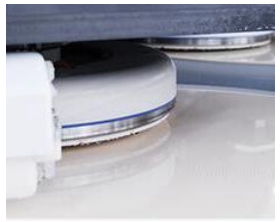
フォトレジスト
(EUV CAR/MOR,
ArF, KrF, i/g線)



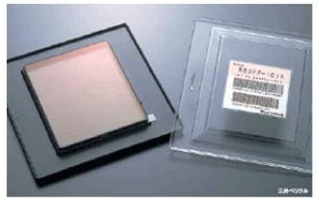
多層膜
(有機系・無機系下地膜)



CMPスラリー



三井ペリクル™

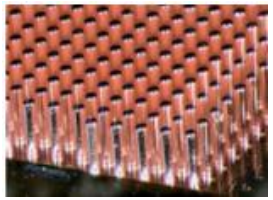


後工程・実装・組立
先端実装の複数工程をカバー

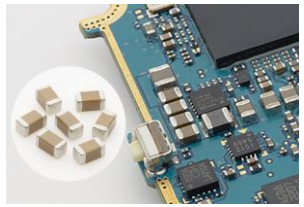
イクロステープ™



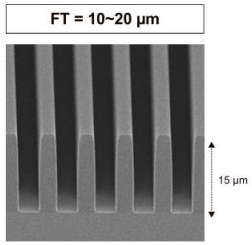
厚膜レジスト



SP-PET™
(MLCC用離型フィルム)



**低誘電材料、
感光性絶縁材料**

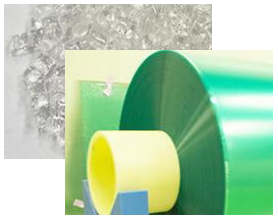


光学
樹脂から機能膜まで提案領域を拡大

LCD・OLED材料
(配向膜, 絶縁膜,
保護膜)



OPT事業
(耐熱透明樹脂,
光学フィルター)



MR™
(高屈折率レンズ材料)



アペル®
(光学レンズ材料)

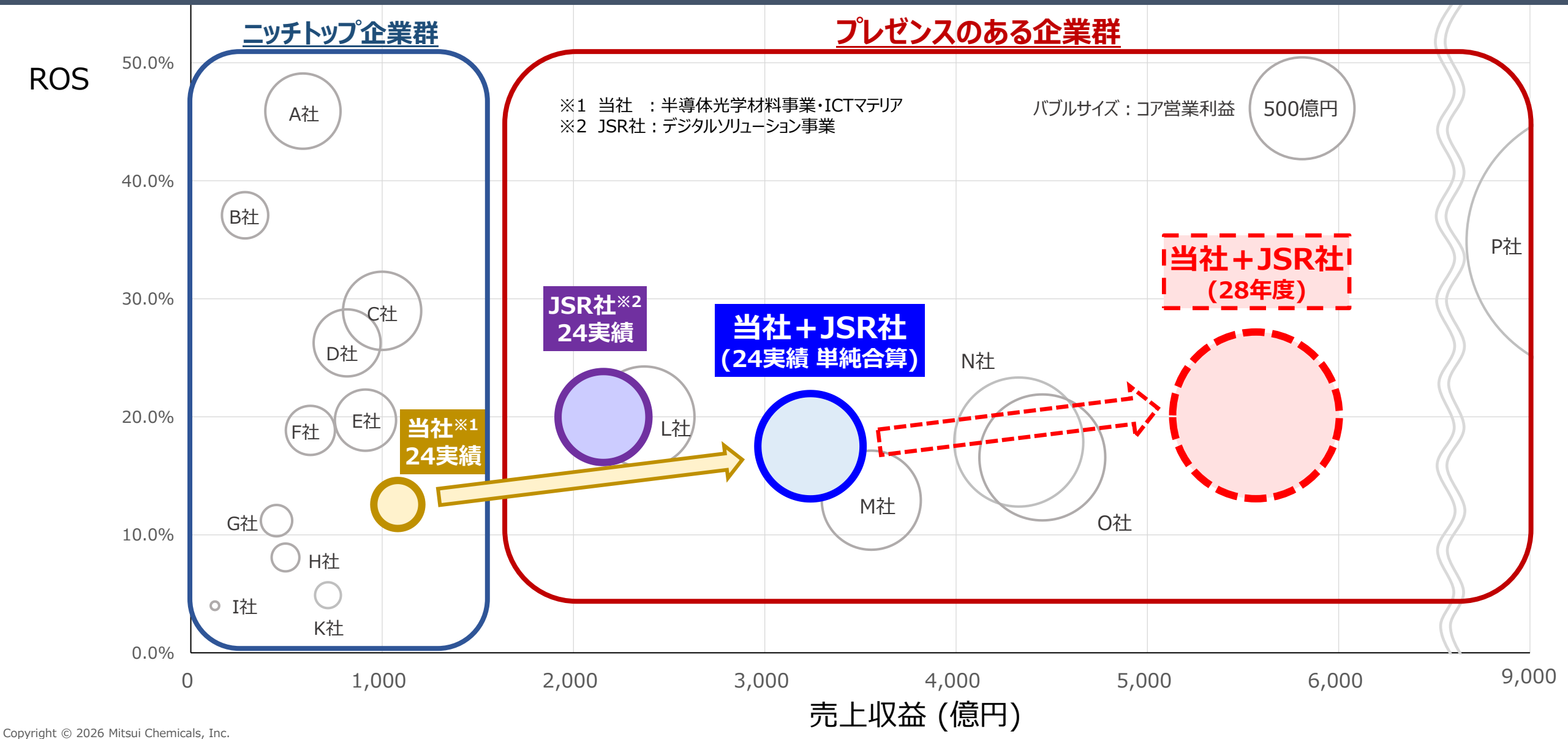


:売上収益 1,000億円以上　:100億円以上

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

半導体市場におけるプレゼンスの確立

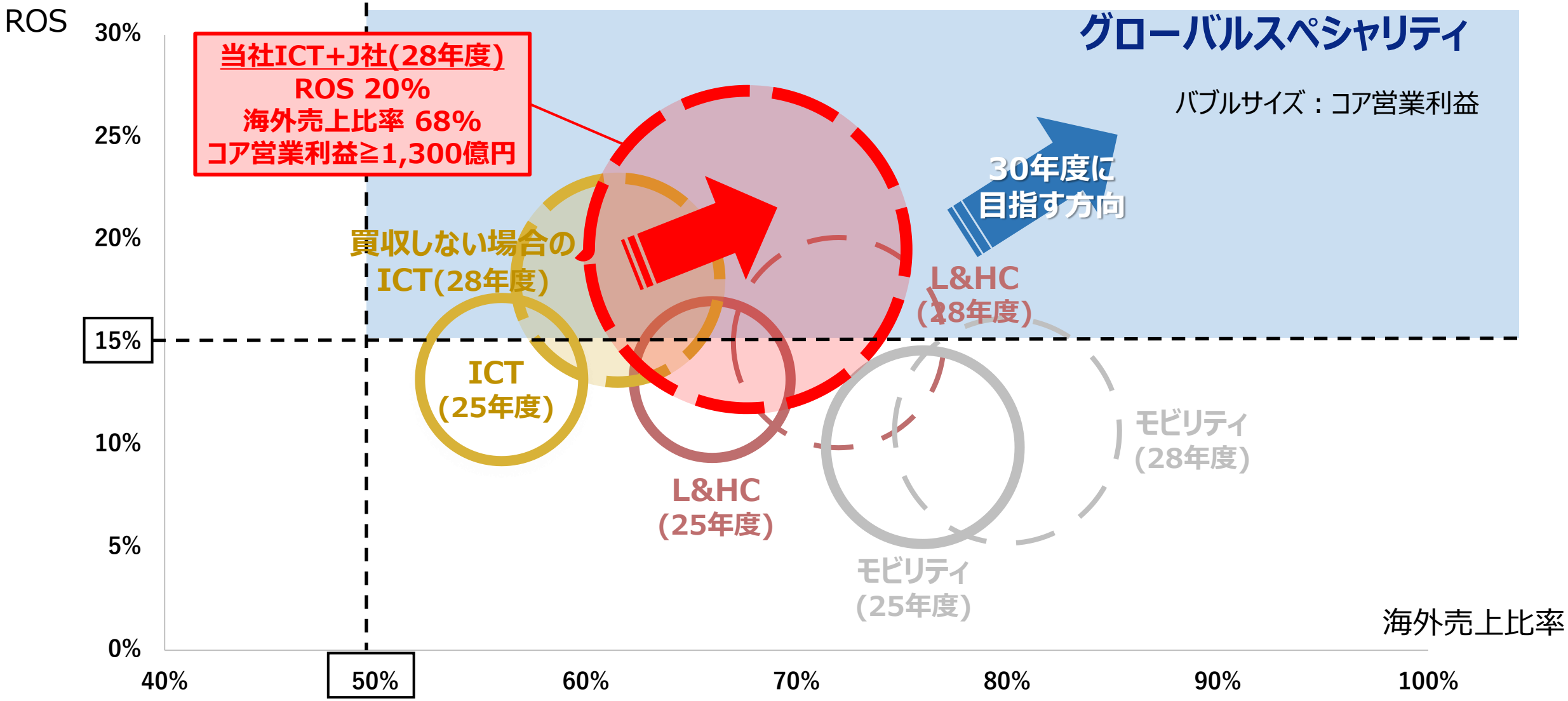
買収により当社ICT事業の規模、収益性が高まり、半導体市場における中核企業としてプレゼンスを確立



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

グローバルスペシャリティカンパニーへのポートフォリオ変革

ICTが第1の柱として収益規模、収益性を大きく牽引するポートフォリオに変革

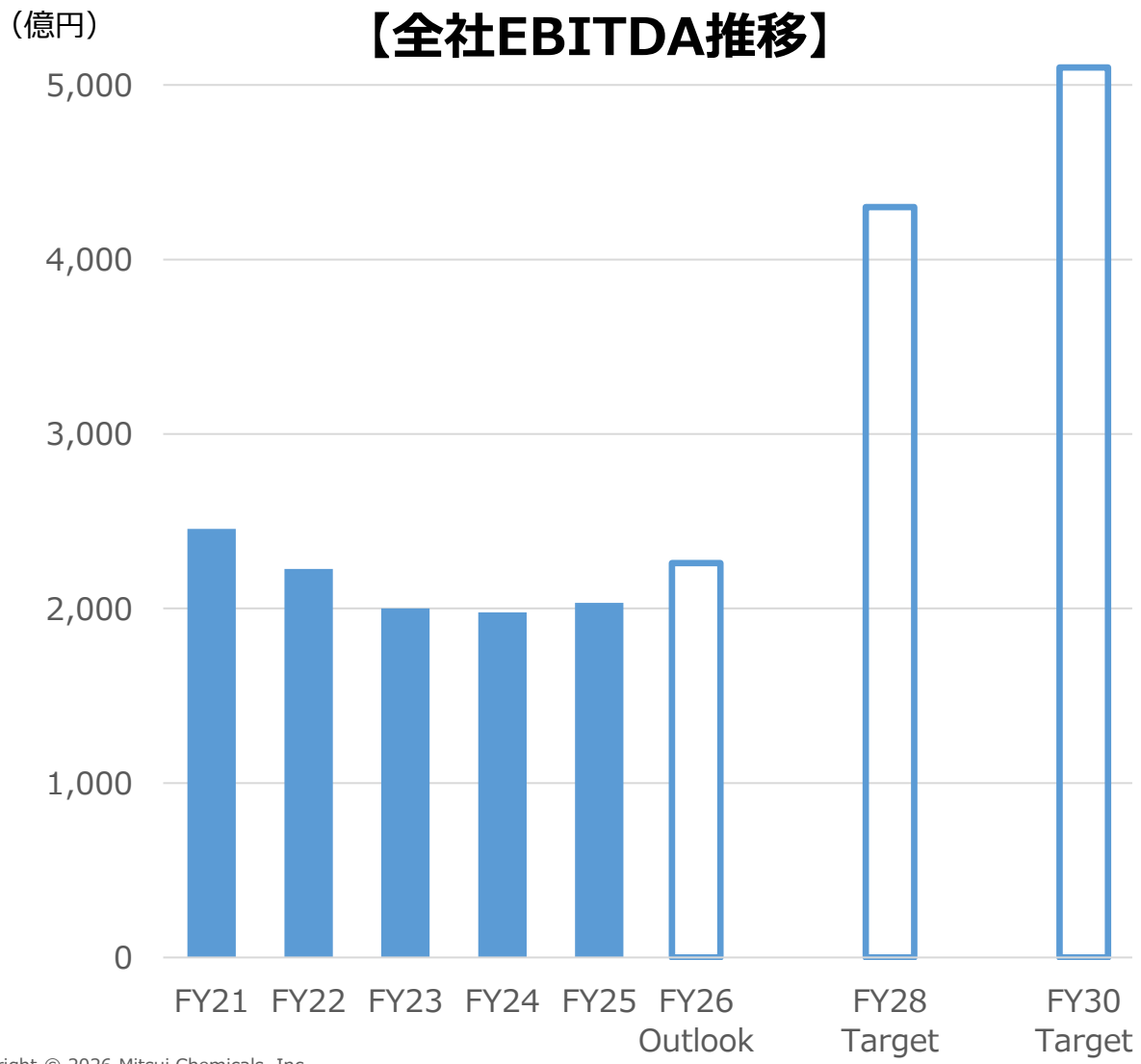


Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

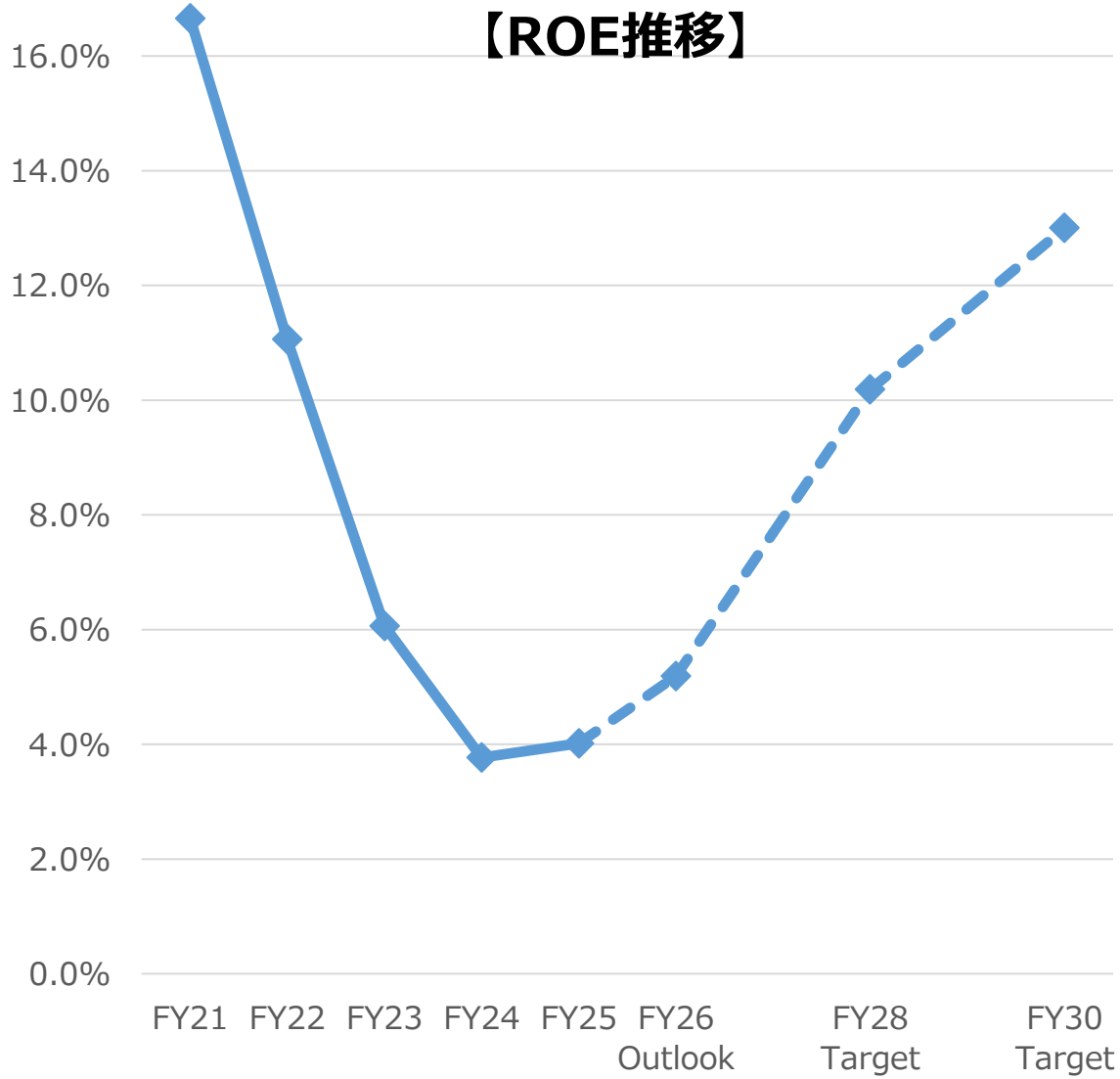
稼ぐ力と資本効率の向上

稼ぐ力が向上し、EBITDAは倍増かつ資本効率(ROE)も10%超へ

【全社EBITDA推移】



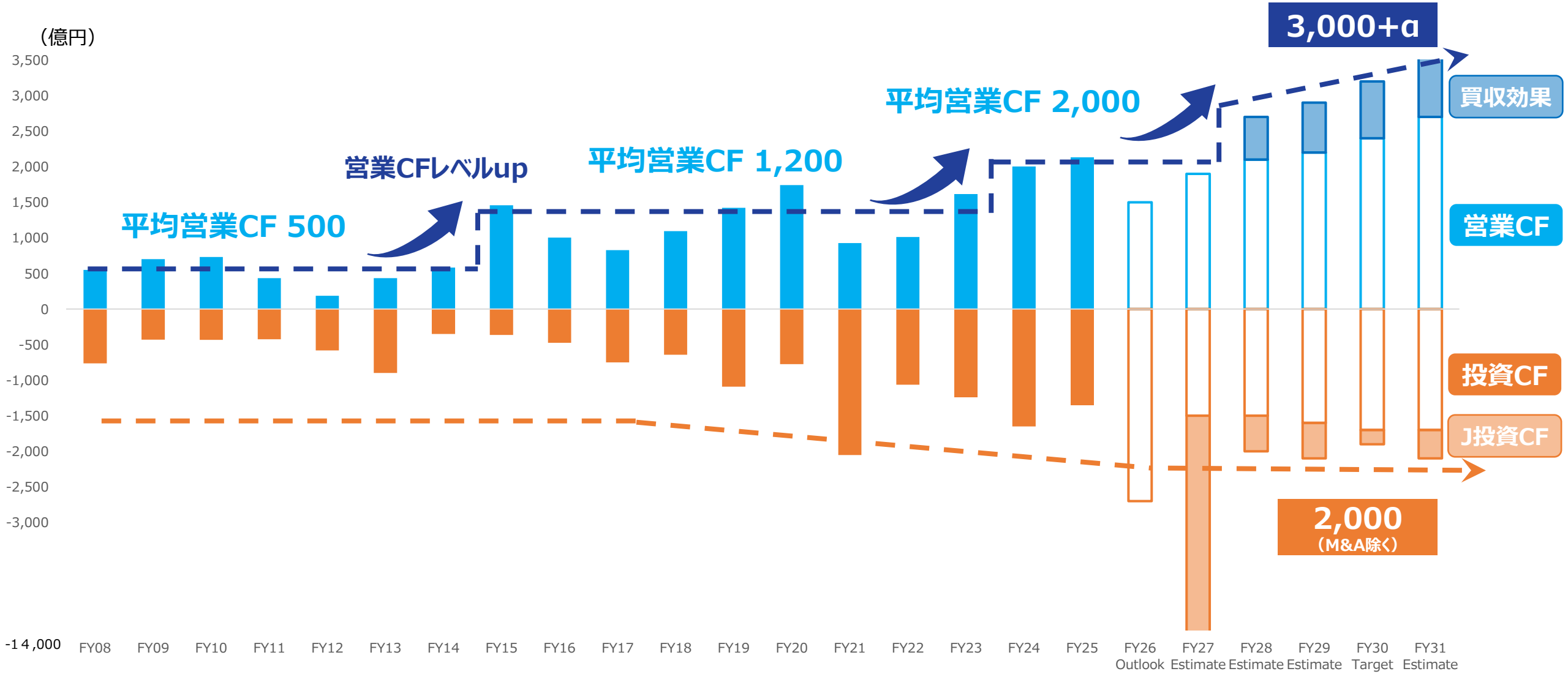
【ROE推移】



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

キャッシュ創出力の向上

買収による収益拡大とシナジーにより稼ぐ力がさらに向上し、オーガニック成長に必要な投資を実行しても毎年1,000億円以上のFCFを創出（1,300億円@FY30）



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

さらなるポートフォリオ変革とライトアセット

クロージング後３年以内

企業価値の
さらなる向上

金利上昇など
不測の事態の
リスク

さらなるポートフォリオ変革
（事業の絞り込み）

- ◆JSR社ライフサイエンス事業の売却
- ◆期待値に満たない事業/関係会社の売却・縮小
- ◆戦略見直しによるさらなる絞り込み

事業基盤強化
（CCC削減、株式売却などライトアセット、コストダウン）

事業価値3,500億円以上のライトアセットを想定

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ JSR社買収概要
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ **価値創造・シナジー**
▶ 資金調達・還元方針
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

両社の補完性

当社の「顧客・事業基盤、コア技術、製品」とJSR社の「顧客基盤、製品、開発力」を一体化し、半導体・光学領域での成長機会を拡張

当社グループ

- **顧客・事業基盤**
  - ペリクル・イクロス世界シェアNo1
  - 半導体限らず幅広い産業接点とグローバルな事業運営基盤
- **製品**
  ペリクル、イクロス、成膜ガス、光学材料
- **コア技術**
  精密有機合成、ポリマーサイエンス、製造プロセス技術

統合により生まれる成長エンジン

- 顧客課題へのアクセス
- 開発スピード向上
- クロスセル拡大
- 新製品創出

顧客起点で価値提供を行い、拡大・成長する

JSR社

- **顧客基盤**
  半導体・光学のグローバル顧客との長期的な信頼関係（高いシェア）
- **製品**
  フォトレジスト、CMPスラリー、多層膜、ALD・CVD材料
- **開発力**
  顧客プロセス適合性評価、感光性・光学・表面／ナノ制御

新たな価値の創造
顧客基盤 × 製品群の拡充 × 技術・基盤の差別化

半導体事業群の拡張

光学事業群の拡張

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

シナジー効果とICT事業の利益計画

売上成長とコスト最適化を両輪に、FY35までに400億円規模の増分利益を目指す
Day1から統合基盤を整備し、短期はコスト・既存品、中期以降は新製品を成長ドライバーへ

売上シナジー　増分利益：200億円

・半導体前工程、後工程・実装におけるシェア拡大
・光学材料のシェア拡大
・新製品投入（3D・高密度実装材料など）

コストシナジー　増分利益：200億円

・本社機能、研究機能、海外拠点の最適化

シナジー効果実現に向けたロードマップとICTコア営業利益推移

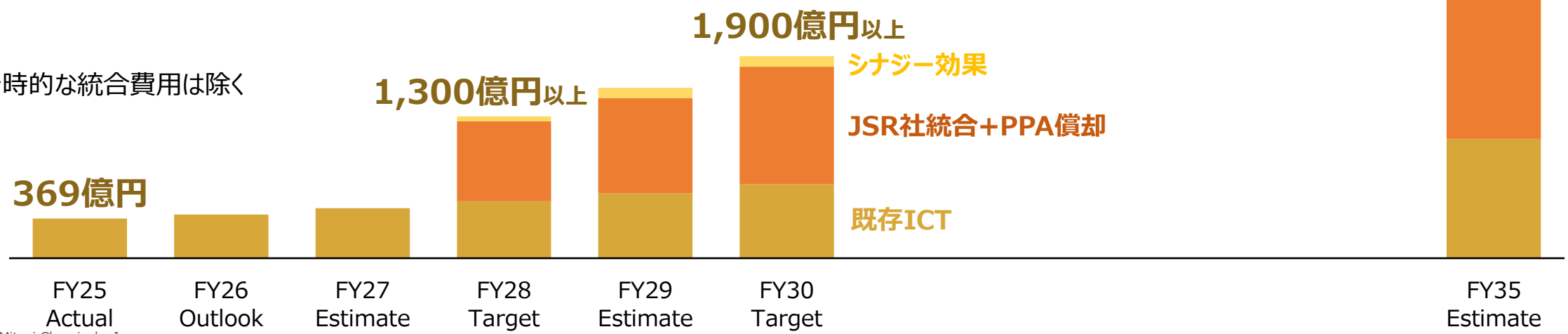
統合基盤の確立
- 顧客・品質・人材の維持
- PMI推進室・分科会立上

早期成果の創出
- 本社・拠点の最適化
- 既存製品のクロスセル

事業統合・加速
- シェア拡大
- 新製品の顧客認定

フルポテンシャルへ
- 半導体・光学事業の拡張
- 新製品の量産・横展開

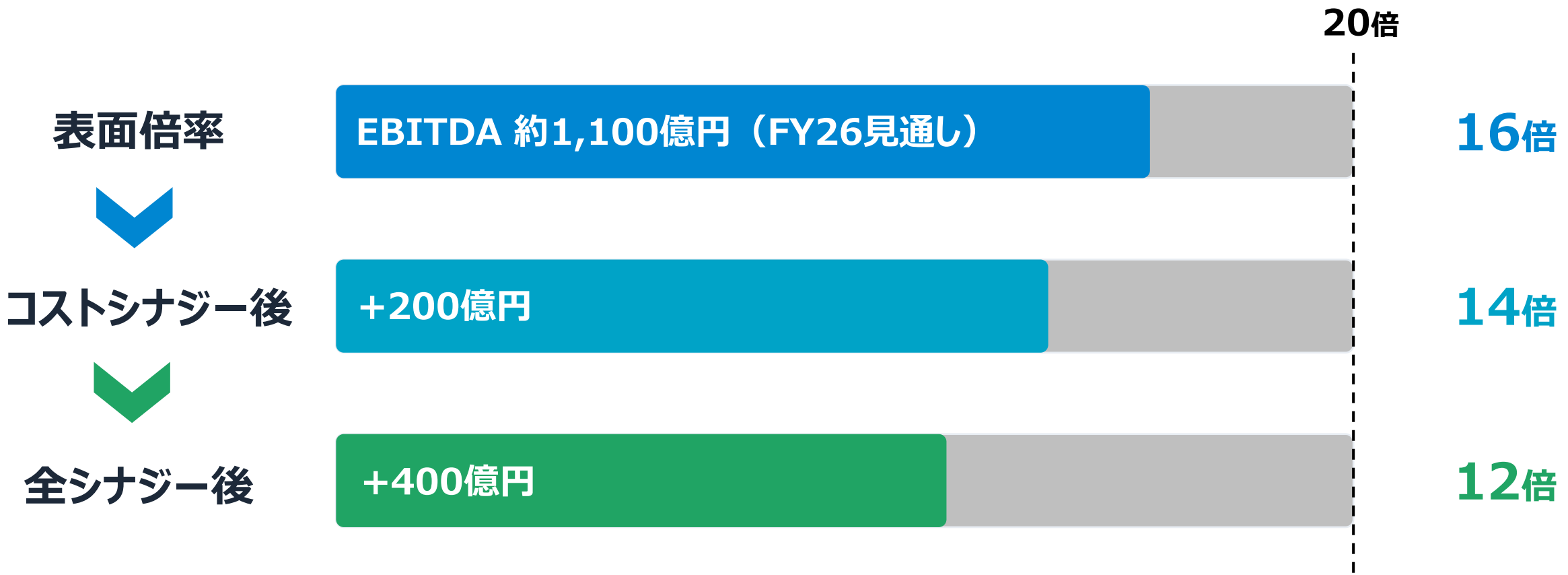
注）一時的な統合費用は除く



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

取得価額の妥当性

買収直後のEV/EBITDA倍率は16倍、シナジー発現によりさらなる価値創造を創出



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

今後のスケジュール

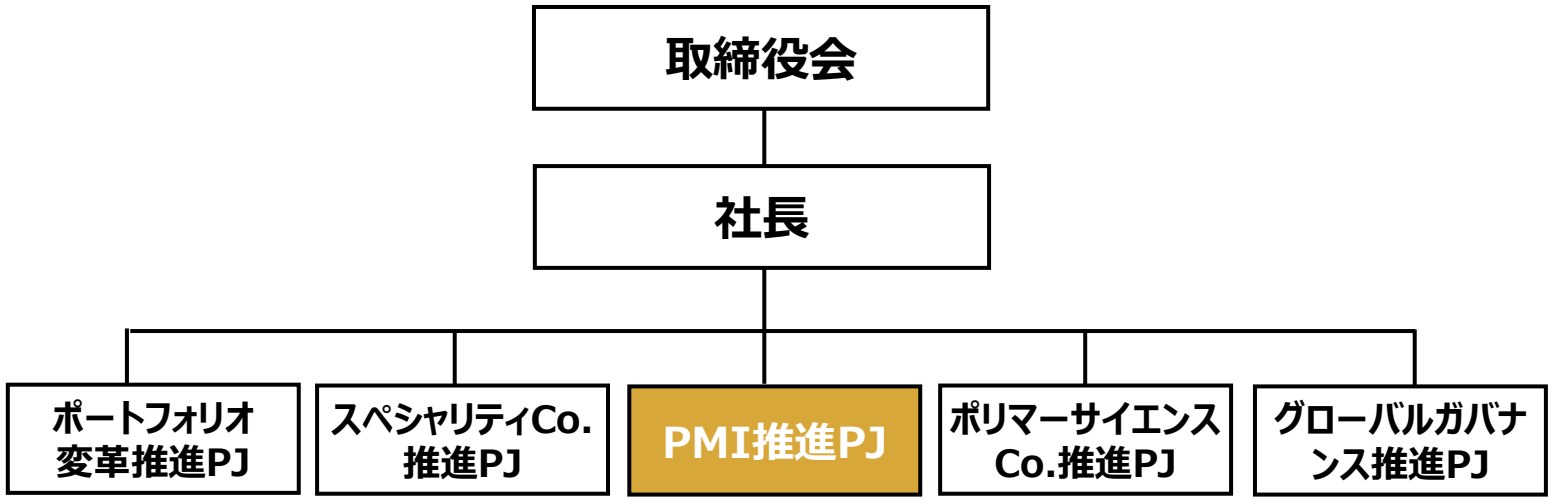
シナジー最大化を図るPMI推進のみならず2軸経営を進化させる組織体制を組成する

検討	最終契約合意・公表	PMI準備・競争法審査	クロージング / Day1	早期シナジー・財務改善	統合最適化による成長加速
	本日	本日～	FY2027下半期（予定）	FY2030完了（予定）	FY2035（予定）

- 取締役会メンバーで**早期の段階から議論**を始め、非公式な意見交換も含め**計12回（うち取締役会6回）議論**
- 議論の主なポイント
  ①企業価値創出につながるか否か
  ②当社およびJSR社の長期的な競争優位性、業績改善のための課題、収益見通しの妥当性
  ③複数の評価手法・複数シナリオによる買収価格の妥当性
  ④財務基盤や規律の維持

⇒**以上のプロセスによりガバナンスを担保**

推進体制（案）
（有事の経営下の覚悟で2軸の価値創造に徹底的に取り組む）



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ JSR社買収概要
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ 価値創造・シナジー
▶ **資金調達・還元方針**
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

統合後の創出キャッシュ配分

統合後に拡大するキャッシュ創出力を成長投資に回しキャッシュ拡大の循環形成のうえ、健全性の回復、安定的かつ継続的な還元を実施する

統合後営業CF
3,000億円+α/年

Step 1：高成長領域への必要なオーガニック投資
（財務健全性回復までは大型M&Aの戦略は凍結）
オーガニック成長・維持投資　2,000億円

FCF
1,000億円以上/年

Step 2：財務健全性の回復
借入返済　FCFを優先して返済に回しデレバレッジ

借入返済後FCF

Step 3：安定的かつ継続的な還元の実施
株主還元　総還元性向40%を維持

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

資金調達方針と財務健全性の回復

第三者出資に加え、資本性調達と借入を組み合わせて財務負荷を抑制
さらなるポートフォリオ変革とライトアセットにより、買収後3年以内に健全性回復を確実にする

【現時点の想定ストラクチャー】

借入・社債

シニアローン等
残額を調達

65%

資本性調達

公募増資 1,500億円上限
メザニン調達＊ 3,000億円

第三者出資

DBJ社優先出資
2,000億円

35%

Day1から3年間の実行プラン

Year 1～
- ✓ パーマネント化
- ✓ さらなる選択と集中による事業売却(3,500億円以上⇒負債による調達比率は半分以下に)

Year 2～
- ✓ シナジー早期発現
- ✓ 運転資本削減などの資本効率改善

Year 3～
- ✓ 借入返済加速
- ✓ 財務目標達成

財務目標（短期・中期）

	クロージング後 3年以内	クロージング後 5年後
Net Debt / EBITDA*	4倍未満	3倍未満
Net Debt / Equity*	1.5倍未満	1倍未満
のれん / 自己資本(Equity)*	100%以下	

＊メザニン調達の50%相当を資本性として認識

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

株主還元方針

総還元性向40%以上を堅持し、財務目標の達成後、DOE目標を速やかに再検討

	現行	見直し後
株主還元方針	資本効率を向上させながら、安定的かつ継続的な配当の実現と、機動的かつ柔軟な自己株式の取得により、株主還元の充実を図る	同左
総還元性向	40%以上	同左 （現行配当水準(75円/株)を下限設定）
DOE* *親会社所有者帰属持分配当率	3.0%以上 FY28までに4.0%を視野に	短期財務目標達成後、DOE目標「3%以上」を再検討

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

Contents

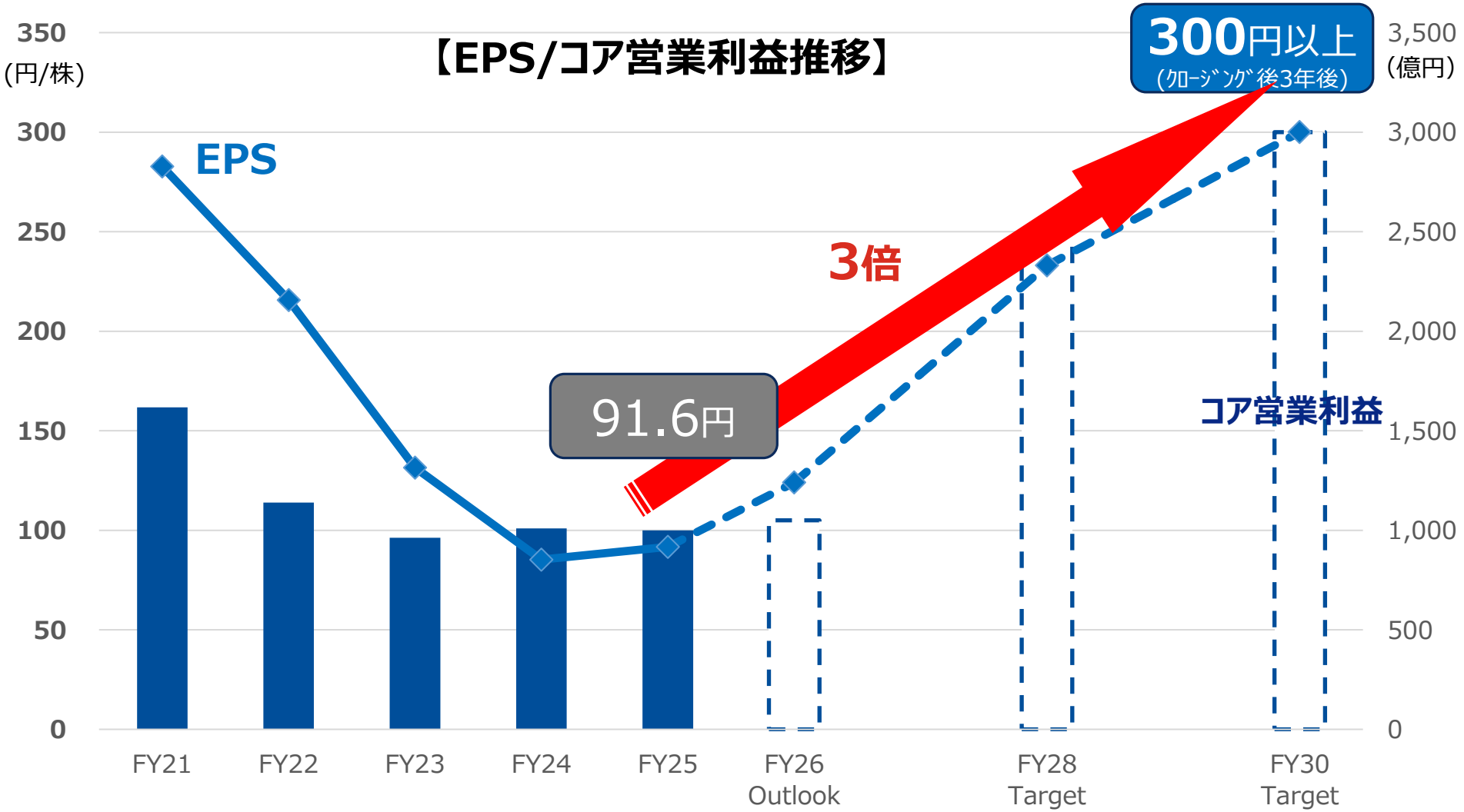
▶ ポートフォリオ変革／2軸経営の進化、進捗・課題
▶ JSR社買収概要
▶ JSR社買収の戦略合理性
▶ 価値創造・シナジー
▶ 資金調達・還元方針
▶ まとめ

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

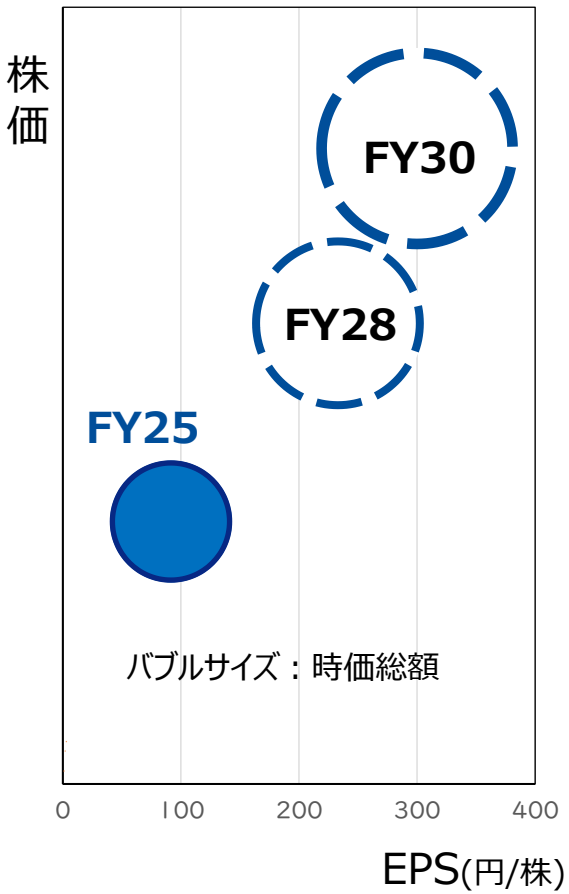
まとめ：企業価値向上へ

VISION 2030目標を超えるコア営業利益「3,000億円以上」を実現し、EPS向上を通じ企業価値向上を目指す

【EPS/コア営業利益推移】



【企業価値向上イメージ】



注：一時的な取引収入・費用を除く

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

まとめ：経営目標

利益成長・財務・株主価値の3つを、明確な期限とKPIで実行し、企業価値の持続的向上を図る

利益成長 FY2030

- ICT事業コア営業利益
  1,900億円以上
- シナジー効果
  400億円@FY35
- 全社コア営業利益
  3,000億円以上

財務 クロージング後 3年以内

- Net Debt/EBITDA
  4倍未満
- Net Debt/Equity
  1.5倍未満
- のれん自己資本比率
  100%以下

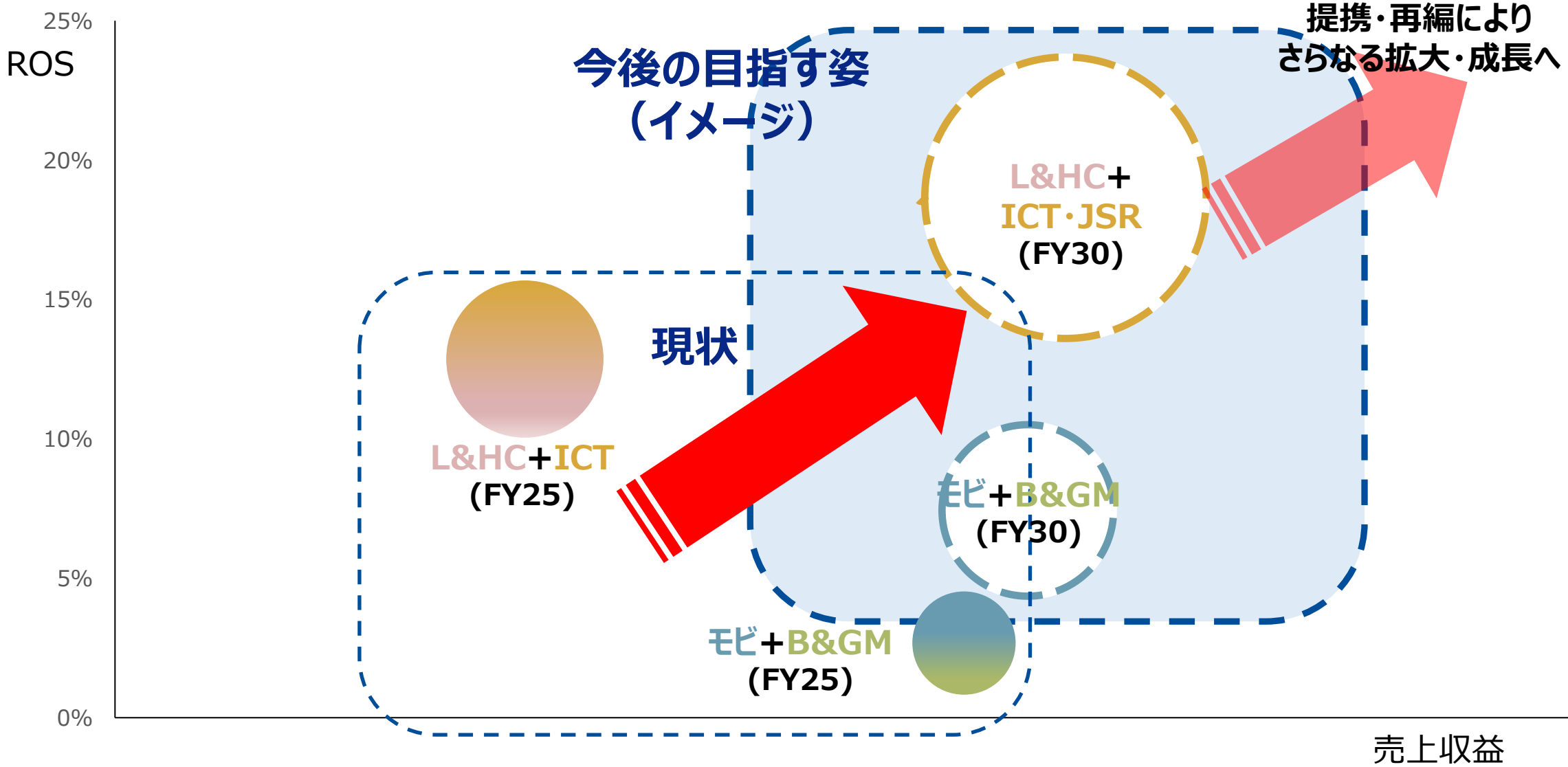
株主価値 持続的に

- 総還元性向
  40%以上を維持
- 企業価値向上
  EPS 300円以上@FY30
- 短期財務目標達成後に
  DOE目標を再度検討

Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.

まとめ：真のグローバルスペシャリティに向けて

FY30に目指す姿を達成するとともに、さらなる再編・提携より海外競合に伍するスペシャリティカンパニー実現へ



Copyright © 2026 Mitsui Chemicals, Inc.


変化をリードし
サステナブルな未来に貢献する
グローバル・ソリューション・パートナー

未来が変わる。化学が変える。

Chemistry for Sustainable World

三井化学

Challenge　Diversity　One Team

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。